

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502374
法人名	有限会社 ふるさと福祉サービス
事業所名	グループホームみちくさ
所在地	福岡県北九州市小倉南区重住2丁目6番58号 (電話) 093-932-2600

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】 (平成19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 7日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2 階建ての 1 ~ 2 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	(有) (90,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年12月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉蒲生病院(認知症・精神) いちはしくクリニック(内科)
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、神社の杜や公園に囲まれた閑静な住宅地に立地している。建物は周囲の環境に溶け込み、木造造りで木の温もりと落ち着きを感じさせる。地域への働きかけは積極的で、地域行事への参加や近隣住民との関係は濃厚である。重度化や終末期に向けては、利用者、家族にアンケートをとって“看取りの支援の方針”を作り上げて対応している。職員に対しては言葉遣い等の接客の基本に関するマニュアルを作成して、その徹底を図っている。入浴、食事、散歩、買い物は、利用者の意思にそって柔軟に対応している。ゆっくり、ゆったり、のんびりとを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、各種マニュアルを作成する等、評価を活かして具体的な改善に一部取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と一部職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者やサービスの実態を報告している。委員から質問や意見、要望を受け、高齢者虐待について専門委員会(リスクマネジメント委員会)を立ち上げ、勉強会を開催する等、その意見をサービス向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会があり、代表者に家族の意見、不満、苦情を集約してもらい、理美容院の利用について支援内容を検討する等、意見を運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。毎週、近隣のゴミ拾いのボランティアや年2回開催されるバザーに参加している。小学校との交流があり、学生ボランティアを受入れる等、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に地域密着型サービスの視点が含まれ、利用者のケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員間で唱和をし、担当職員が理念の具体性について話をしている。また、月1回の全体会議で具体的な実践について検討している。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。毎週、近隣のゴミ拾いのボランティアや年2回開催されるバザーに参加している。小学校との交流があり、学生ボランティアを受入れる等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と一部職員で取り組んでいる。前回評価での改善課題については、各種マニュアルを作成する等、評価を活かして具体的な改善に一部取り組んでいる。	○	全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。また、外部評価の改善課題を书面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者やサービスの実際を報告している。委員から質問や意見、要望を受け、高齢者虐待について専門委員会(リスクマネジメント委員会)を立ち上げ、勉強会を開催する等、そこでの意見をサービス向上に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口に出向き、他の事業所と協働して作成した要望書を提出して会議を行ったり、最新情報を積極的に聴取する等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部職員が制度に関する研修を受講しているが、利用者・家族等への説明は特に行っていない。	○	全職員が必要に応じて家族等に説明ができるように内部研修等を行い、知識の習得に努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶり、健康状態について、写真を添付し送付または手渡ししている。緊急時には電話で状況報告を行っている。家族の来訪時には、職員や管理者が現状報告を行っている。金銭管理については、金銭出納簿を利用者毎に作成し、月締め会計報告書と領収書のコピーを家族に送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に職員が声かけするだけでなく、家族会の代表者に家族の意見、不満、苦情を集約してもらい、理美容院の利用について支援内容を検討する等、意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、全職員が全利用者の馴染みとなるよう、日常的にユニット間での交流がある。また、離職する際は、十分な引継ぎ期間を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等を理由に排除することなく、働く意欲・態度等の仕事に対する姿勢を重視している。また職員の職場環境において、差別なくその能力を發揮して生き生きとして勤務できるように配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する内部研修を開催している。勤務の都合で不参加の職員には、資料等を配布して周知徹底に努めている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1～3回、内部研修を行い、また外部研修に参加する等、運営者は職員が働きながらトレーニングしていくことを進めている。不参加の職員には資料等を回覧し、内容の共有に努めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県高齢者グループホーム協議会に加入している。月1回の管理者同士の情報交換や年4回の職員研修会に参加している。また、他事業所への1日体験を実施する等して同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、1週間の体験入所や自宅訪問、病院訪問、他施設訪問を行っている。やむを得ず即入所の際は、職員が常に利用者寄り添い、心と身体のケアを行い、家族等と相談して、積極的に来訪してもらうよう働きかけている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、園芸、調理、洗濯物の干し方等を教えてもらう場面や労ってもらうことがある等、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの思いや希望の把握に努め、フェースシートを作成して支援している。また、意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにし、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、利用者一人ひとりの情報記録簿を作成し、その内容を基に全職員で協議して、利用者・家族等の意見も反映した介護計画を作成している。家族の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。また、状態変化の折には、その都度介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、職員がほぼ毎日病院へ見舞いに行き、早期退院に向けて医療機関に情報提供をしたり、医師及び家族と連携を密にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。情報を共有化するために事業所は血圧等の記録を作成し、受診時に医師に提示している。また、通院の付き添いや送迎等の対応方法について、家族等と合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針があり、入居時に家族等へ説明している。また、折に触れて家族と医師、職員で話し合い、対応を検討し、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に配慮している。採用時また年1回、接遇や個人情報等について内部研修を実施している。記録等の個人情報の取り扱いについては、ミーティング等で意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や、その日その時の気持ちを尊重して、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人については、臨機応変に一人ひとりのタイミングや意向、希望に応じた入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や干し柿作り・おやつ作り等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員は利用者者に感謝の気持ちを伝える等し、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の体調等を考慮しながら、ほぼ毎日の散歩や週1～2回の買い物、ドライブ等を行って、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、玄関に設置したセンサーに頼ることなく、見守りや付き添いを行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使用訓練を実施している。	○	今後はいざという時のために、地域住民の参加や協力も得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料や備品を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。月1回、献立に関して会議を開催し、利用者の状態や嗜好、要望に合わせて献立を作成している。また、栄養士に、栄養バランスやカロリー等の専門的なアドバイスやチェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングに畳の部屋があり、季節感を感じる飾りや写真入りのカレンダーを設置し、家庭的雰囲気配に配慮している。光はカーテンによって調節し、不快と感じる音もない。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、家族写真等を飾り、仏壇や家具・テレビ・冷蔵庫等、馴染みの物を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。